

サム・ライミ『スパイダーマン』（2002）に 於けるピーター・パーカー／スパイダーマン とノーマン・オズボーン／グリーン・ ゴブリンの類似性と対照

木村建哉

序

本論考では、サム・ライミ Sam Raimi 監督の映画『スパイダーマン』*Spider-Man*（2002年公開）に於いて、ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの類似性と対照とがどのように描かれているかを分析する。併せて、両者の行動を描く物語の道筋が、どのように並行関係を成しつつも重大な時点で交錯するかをも明らかにする。

『スパイダーマン』では、ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの類似性と対照とは、極めて細やかに、緻密に描写され、それが観客の殆ど気付かない内に映画の構成と展開とを支えている。『スパイダーマン』のそうした特徴を明確にすることが本論文の最大の目的である。勿論、『スパイダーマン』の主人公はピーター・パーカー／スパイダーマンであるので、映画に於ける描写の重点がピーター／スパイダーマンにあることは言うまでもない。又、主人公ピーター・パーカー／スパイダーマンと悪役ノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの類似性を強調することは、一方で両者の対照を際立たせることに大きく寄与している。

1. スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの誕生

最初に注目すべきは、ピーター・パーカー Peter Parker（トビー・マ

グワイア Tobey Maguire) がスパイダーマンと成る原因の出来事と、ノーマン・オズボーン Norman Osborn (ウィレム・デフォー Willem Dafoe) がグリーン・ゴブリンと成る原因の事態とが、同じ日に起きていることである。スパイダーマンとグリーン・ゴブリンという名称は未だ存在しないとはいえ、ピーター・パーカーが事実上スパイダーマンと成るのと、ノーマン・オズボーンが事実上グリーン・ゴブリンと成るのは、同じ日にそれぞれを見舞った出来事、或いは事態によってである。

このことを強調する為に、そうした出来事や事態が生ずる前に、『スパイダーマン』はピーターとノーマン・オズボーンとをその同じ日に先に出会わせている。ハイスクールの授業の一環としてコロンビア大学の科学部門の研究機関¹⁾を見学に来たピーターと、息子ハリー Harry (ジェームズ・フランコ James Franco) を運転手付きの高級自動車で送って来たノーマンとは²⁾、ハリーの忘れ物を渡す為にノーマンが自動車を降りて彼を追って来たことを切掛けに、ハリーの紹介によって知り合う (ch.1, 0:05.10-)³⁾。ハリーからピーターが科学を得意とすることを聞いていたノーマンは、自らも科学の研究を行っていることをピーターに話すが、ピーターが自分の書いたナノテクノロジーについての論文を全て読み、それらを理解したばかりかそれらについてレポート (paper) を書いたことを知って非常に驚く。ピーターとノーマン・オズボーンとがそれぞれスパイダーマンとグリーン・ゴブリンと成る契機の出来事或いは事態が起きる前に科学への造詣が深いという二人の共通点を強調することは、両者の類似性を観客に印象付ける点で非常に効果的である。

しかし同時に、運転手付きの高級車に乗るノーマン・オズボーンと、恐らくは地下鉄で来たピーター (JTB「コロンビア大学 (Columbia University) の観光情報」を参照) との対照もここで示されていることにも注目すべきである。ピーターがスクールバスに乗り込むところ (ch.1, 0:04.04-) とそれに乗り損なうところ (ch.3, 0:20.18-) は示されるが、スクールバスの中にはいつも高級車で送って貫っているハリーの姿が見当たらないことも、貧しい、或いは少なくとも裕福には程遠いピーターの家庭 (ここまではまだ登場していない彼のおじペンは失業中である) と父親が大金持ちであるハリー、更にはその父ノーマン・オズボーンとを対照的に示す演出である⁴⁾。

コロンビア大学の研究機関では、ピーター達は様々な種類の蜘蛛を見

学するが (ch.2, 0:06.29-)、遺伝子操作を加えられた蜘蛛の一匹が飼育槽の外に逃げ出してピーターの上方に巣を張っており⁵⁾、MJの写真を撮り終えたピーターは糸にぶら下がって降下してきた蜘蛛に噛まれ、これがピーターのスパイダーマンへの変化の原因となる。ピーターを噛むこの蜘蛛は、赤と青の二色であり、これはスパイダーマンのスーツの色を意識しての演出である。又、ピーターの背後のモニターには、それぞれ赤い枠と青い枠とに収まった蜘蛛の姿が映し出されていて、これも同様の演出である⁶⁾。ピーターが蜘蛛に噛まれた後には、その背後のモニターにDNAの二重螺旋が映し出されているが、これはその後ピーターに生じる遺伝子のレベルでの体質の根本的な変化を予告するものである。尚、ここでDNAの二重螺旋は赤青緑の三色を中心として表示されているが、これは続く場面でおズコープ社 Oscorp Industries によって行われている実験が取り上げられ、グライダーに乗る人が着るスーツも緑色であり、床も緑色、モニターの画面に映るのも緑色の映像であり、更には軍人達の制服も緑色であることへの繋ぎと成っている。これらの緑色はグリーン・ゴブリンの登場を予告している。但し、この時点では、グライダーは銀色であるが、それに乗っている人間は、スーツは緑色であるが緑色のマスクは着用しておらず、これはグリーン・ゴブリンの登場までは緑色のマスクは見せずに、グリーン・ゴブリンが黄色い眼と基本的には黒い口以外は全身が緑色であることを後に強調する効果を齎す。

このオズコープ社の場面では、理由は描かれていないがおズコープ社に強い反感を持っているスローカム将軍 General Slocum (スタンリー・アンダーソン Stanley Anderson) が登場する。彼は、人間の能力を大きく引き延ばしグライダーの操作も極めて容易とする薬剤 (human performance enhancers) に関して、暴力や攻撃性、錯乱状態を引き起こすというストロム博士 Dr. Stromm (ロン・パーキンス Ron Perkins) が挙げる欠点⁷⁾ を克服して二週間以内に人間を使った実験で結果を出すことをノーマン・オズボーンに強く求め、それが出来なければオズコープ社ではなくクエスト社 Quest Aerospace が開発中の兵器を採用する旨を告げる。

次の場面 (ch.2, 0:12.34-) はピーターの家であり、おじベンとおばメイのもとへとピーターが帰宅するが、丁度夕食の時間で「一口食べない? (You won't have a bite?)」と問うおばメイに、「いいよ。もう一口

食べた／噛まれた。(Had a bite.)」とピーターは答えて、自室で眠りに就こうとする。ここで映し出されるピーターの身体は、筋肉が全くと言って良いほど付いておらず、貧弱である⁸⁾。その頭の中では、赤と青のDNAの二重螺旋が見えて（繰り返すまでもなく赤と青はその後スパイダーマンのスーツの色となる）、それが一瞬緑色に転じてから又赤と青に戻った後で、場面が替わり（ch.3, 0:14.56-）、緑色のオズコープ社の建物が映され、次いで緑色のガス状の薬剤を詰めたガラス管がクローズアップで強調される。

モニターが緑色であることは前の場面と同様であるが、床も緑色であることはやや斜めの俯瞰によってより強調されている。ノーマン・オズボーンは、副作用を心配するストロム博士の制止を振り切って円筒状のガラスの実験室に入って充滿させた緑色のガスを吸引するが、一旦は心臓が停止してしまう。ストロム博士の背後のモニターでは、緑色に危険を知らせる赤色が短い周期で混ざり、扉を開けて実験室に飛び込んだストロム博士が心臓マッサージによる蘇生を試みると、突然意識を取り戻したノーマン・オズボーン、というよりは実質的には既にグリーン・ゴブリンは、ストロム博士の喉元を右手で掴んで実験室の外へガラスを破って投げ飛ばす。

ピーター・パーカーがスパイダーマンと成るのも、ノーマン・オズボーンがグリーン・ゴブリンと成るのも、それぞれ自らの意図によるものではないという点は共通するが、ピーターがスパイダーマンと成るのは完全に偶然の出来事により、ノーマンがグリーン・ゴブリンと成るのは、それまでの実験結果で薬剤の副作用が示されていたことから或る程度までは予測可能であったという点は、スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの誕生の経緯が似ていながら、決定的な部分では両者の誕生の要因ははっきりと対照的であることを明確に示している。

グリーン・ゴブリンの実質的な誕生を描く場面の後には、目覚めたピーターが自分の変化に気付いて行く過程が描かれるのだが、節を改めて、自らの変化を自覚するピーターと、自らの変化にまだ気が付いていないノーマン・オズボーンとの対比を確認する。

2. 自らの変化を自覚するピーター・パーカーと自らの変化に気付かないノーマン・オズボーン

朝に成って目を覚ましたピーターは (ch.3, 0:17.48-)、先ず眼鏡を外した方が鏡の中の自分の姿がハッキリと見えることから、そして鏡に映る自分の姿が、前夜の貧相な体付きとは打って変わって筋肉が隆々とした状態となっていることから、自分の変化に気付き始める。このピーターが鏡を見る場面は、アルフレッド・ヒッチコック Alfred Hitchcock の『舞台恐怖症』 *Stage Fright* (1950) で、ジェーン・ワイマン Jane Wyman 演ずるヒロインのイヴ・ジル Eve Gill が、変装して眼鏡を掛けて鏡を見ると自分の姿が見えず、眼鏡を外すとハッキリと見えるという場面 (ch.10, 0:37.29-) を明らかに意識したものである⁹⁾。又、ピーター・パーカーに関して鏡を用いる演出は、初登場時にスクールバスのサイドミラーにその姿が映ることと、その直後にバックミラーにも身体の一部が映ることとによってその効果を高めており¹⁰⁾、これらが計算された周到な演出であることは疑う余地が無い。

階段を壁伝いに駆け下りたピーターは、学校へと出掛けるが、先を歩いていた MJ に見とれていて、そして彼女に掛けるべき、しかし殆ど妄想の域を出ない言葉をあれこれと呟いていて、MJ が友達の車に乗せて貰って去ると、その後スクールバスの通過に気付くのだが乗り損なう。スクールバスと並走してその外側を叩いたピーターの手には、スクールバスの学校名等を表示している横断幕状の紙が張り付いて破れる。ピーターは自分の手の平を見詰めるのだが、ここではまだそのクロスアップを入れないことは、その後ピーターが自らの変化が如何なるものであるかをハッキリと認識する瞬間の効果を高める為の周到な配慮である。

場面が替わってノーマン・オズボーンの豪邸では (ch.3, 0:20.53-)、ノーマンは床に倒れて寝ていて息子のハリーに起こされるのだが、前夜の記憶は朧気なものであり、一瞬だけ実験中の記憶が浮かぶが、ノーマンにはそれが記憶であるのか妄想、或いは夢の一部であるのかさえ定かではない。そこにオズコープ社の女性スタッフが、ノーマンの秘書と思われる男性の制止を振り切って現れ、ストロム博士が殺され、スーツとグライダーが盗まれたことを告げるのだが、ノーマンはそれがどうい

事態であるかが全く理解出来ない。尚この場面でも、緑色の壁や柱やハリーの着ている緑色の服やソファに含まれる緑色等によって後のグリーン・ゴブリンの登場が予告されている。

次の場面 (ch.3, 0:21.48-) では、ピーターの高校で学生達がランチを食べている場で¹¹⁾、ピーターは足を滑らせた MJ を助け、その後手首から蜘蛛の糸が出ることに気付いたことを切掛けとして MJ の交際相手であるフラッシュ・トンプソン Flash Thompson (ジョー・マンガニエロ Joe Manganiello) と喧嘩と成るが、超人的な能力を身に付けたことによって彼を簡単にぶちのめす¹²⁾。続けて街に出たピーターは (ch.4, 0:25.11-)、両手の指から生えている触手状のものを使って自分が壁を登れることに気付く。ここで蜘蛛に噛まれた傷跡が示された後に、彼の左手の親指がクローズアップで二度映され、極めて効果的に彼の変化を示している。又ピーターは、手首から発出される蜘蛛の糸を使って空中を飛び回り移動することも可能であることを知る。但し、こうしたことに夢中になって時間を費やしてしまった為に、ピーターはおじベンとともに家のキッチンの壁を塗り替える約束をしていたことを忘れてしまい、帰宅が非常に遅くなる。ここで、緑色のペンキが映され、以前は茶色だったキッチンの壁の一部が緑色に塗り替えられていることが後に示される (ch.5, 0:34.13-) ことにも注目すべきであろう。これは言うまでもなく、ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの類似性を示す演出の一環である。

その後 (ch.5, 0:28.25-)、アルコール中毒ではないかと強く疑われる MJ の父親にその妻が罵倒され続けるのを耳にしてからゴミを出しに家の外に出たピーターは¹³⁾、丁度外に出て来た MJ に自分が殴ったフラッシュの容体を尋ね、その後は高校卒業後の目標を語り合う。ニューヨークでカメラマンをしながら大学に通いたいというピーターに対して、MJ の目標は、矢張りニューヨークで女優を目指すというものである。こうした会話の途中で、親から誕生日祝いに買い与えられたという新車に乗ってフラッシュが現れ¹⁴⁾、MJ とともに去る。ピーターは自分も自動車を買うことを考えて、様々な中古車を紹介する新聞の広告欄を見ている内に、リングで3分間耐えられれば賞金 3,000 ドルが得られるという「アマチュアレスラー」募集の広告を見付けて (実際に行われるのは、ロープを張ったリングの中での事実上のプロレスの試合である¹⁵⁾)、自

動車の購入費用をまかなう為に出場することを決める。スパイダーマンと成り（この名称はまだ存在しないが）、超人的な力を手に入れたピーター・パーカーは、それを自分の為に、恋愛の成就の手段として先ずは使おうとするのである。それがおじベンの死を齎すことと成り、悔い改めたピーターがニューヨークに出て以降は自らの超人的な力を悪との戦いに向けることと成る点、そして「ザ・ヒューマン・スパイダー」と名乗ることを決めていたのに、リングアナウンサー（ブルース・キャンベル Bruce Campbell）に名前を勝手に「スパイダーマン (Spider-Man)」に変えられてしまい、結果的にスパイダーマンという呼称が誕生した点については、既に木村 2022a:51 (6) で論じた通りである。

ピーターは、自らの都合しか考えない行動（賞金目当てに「プロレス」の試合に出ることと自らの勝利に対する賞金をきちんと貰えなかった腹いせに強盗を見逃してやったこと¹⁶⁾）とおじベンについていた嘘（実際には「プロレス」の試合に出るのに図書館で勉強すると言っていた）が彼の死を齎したことを、そして彼との実質的な最後の会話で、自らの将来を気に掛けてくれるおじベンの言葉を無下に否定して「父親ぶるな！」という非道いことを言ってしまったことを心の底から後悔していて、ニューヨークに出て以降は、自分が得た超人的な能力を、自分の利益の為ではなく人々の為に、社会の秩序と平和を守る為に用いることを決心する。

対して、ノーマン・オズボーンはどうだろうか。社長を務めるオズコープ社がライヴァルであるクエスト社に契約を奪われそうであり、ノーマン・オズボーンも終わりか、という『デイリービューグル』*Daily Bugle*紙¹⁷⁾の表紙や記事を見ても、ノーマンは為す術を知らないのだが、そこにグリーン・ゴブリンの笑い声が不気味に響く (ch.5, 0:33.49-)。ノーマンは、副作用の有る薬剤を飲んだ結果自分の中にグリーン・ゴブリンというもう一つの人格が生じたことにまだ気付いておらず、その笑い声がどこから来るのか、もしかしたら自分の幻聴なのか、といったことが全く分からない状態である。自らの変化に気付くという点では、ノーマン・オズボーンはピーター・パーカーに遥かに後れを取っている。しかも、ピーター・パーカーとスパイダーマンは、姿を使い分けてはいるが人格的には一つであるのに対して、ノーマン・オズボーンは、薬剤の副作用によって気付かぬ内にグリーン・ゴブリンに事

実上支配されてしまっているという点で、両者は対照的である。但しグリーン・ゴブリンは、後に見る様に、実はノーマン・オズボーンの潜在的で邪悪な願望を実現している。

グリーン・ゴブリンは、クエスト社の兵器の実験場を襲撃し、スペーススーツ（外骨格 exoskeleton）を着て飛行中の操縦士やクエスト社の関係者、ノーマン・オズボーンを毛嫌いするスローカム将軍を含む軍関係者等をミサイルで攻撃して殺害する（ch.8, 0:49.49-）。後で分かる様に、この時点でもノーマン・オズボーンには自らがグリーン・ゴブリンであるという自覚はない。因みに原作のコミックではグリーン・ゴブリンのスーツは緑と赤紫の二色から成るのだが¹⁸⁾、映画ではスーツは緑一色に変更されていて、これは緑をスパイダーマンのスーツの赤と青と合わせると光の三原色と成ることと、スパイダーマンのスーツの赤と、彼のスーツの青とグリーン・ゴブリンのスーツの緑の中間の色である青緑とが、補色の関係であることを意識してのことである。特に赤と緑は対比が際立ち、映画ではしばしばそれが活用される¹⁹⁾。爆発による大量の赤い炎が、空中を舞う多数の緑色の帽子へとディゾルヴによって繋げられ、場面はピーター、ハリー、MJの卒業式直後へと転換する（ch.8, 0:50.46-）。

ノーマン・オズボーンはピーターの科学賞受賞を祝福し、おじベン之死に対して悔やみの言葉を述べるが、卒業式 commencement という日を楽しんで欲しいと語りかける。ノーマンが言う様に commencement は「一つのことの終わり」であるが、「何か新しいことの始まり」でもある。アメリカでは、卒業式のガウンの色はハイスクール毎に多様であるのだが、この場面でガウンが、そして帽子も緑色であるのは、明らかにグリーン・ゴブリンの緑色との繋がりを意識したものである²⁰⁾。尚、この場面でMJがフラッシュ・トンプソンに別れを告げて指輪を返し²¹⁾、その様子をハリーが見ていることは、その後の映画の展開を考える上で非常に重要である。

ピーターがスパイダーマンとしてニューヨークで悪と戦うことをはっきりと決意するのは実はこの夜のことであり、ピーターが自分で描いたスパイダーマンのスーツの絵を見ているところに続けて、ニューヨークに於ける彼の様々な活躍が示される。

一方では、科学に於いて卓越しているという点での、そしてピーター

とハリーが事実上兄弟の様な関係であることから来る、ピーター・パーカーとノーマン・オズボーンの繋がりが強調されているが、他方では、スパイダーマンとして活動していくことをはっきりと自覚しているピーター・パーカーと、自分がグリーン・ゴブリンという別人格に実は支配されていることに未だに全く気付いていないノーマン・オズボーンとの対比もここでは明確に示されている。

3. スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの最初の接触、 一度目の戦い

スパイダーマンとグリーン・ゴブリンが最初に接触するのは、オズコープ社によって行われている調和の日の祭典 Unity Day Festival (ch.11, 1:04.20-) でのことであり、この場で二人は、互いの正体を知らないままに初めて戦う。この時点に至って尚、ノーマン・オズボーンは自分の内にグリーン・ゴブリンという別の人格が宿っていることに気付いていないのだが、グリーン・ゴブリンがこの祭典を襲撃してオズコープ社の役員達の多く、かつ中心的な人々を爆弾で殺すのには理由がある。直前の場面 (ch.10, 1:02.43-) で、ノーマン・オズボーンは取締役会に於いて、オズコープ社のクエスト社への売却と社長である自らの解任とを恐らくは会長か取締役会の中心的なメンバーと思われるマックス Max²²⁾ (ゲリー・ベッカー Gerry Becker) から告げられたからである²³⁾。この提案は、ノーマン・オズボーンには秘密にされていたが、彼以外の取締役達は全員既に知っていて賛成である。グリーン・ゴブリンによるオズコープ社の多数の、そして主たる役員達の殺害は、オズコープ社のクエスト社への売却を止めたいというノーマンの欲望を現実とするものであり、自分にとっての邪魔者達を排除したいという点では、グリーン・ゴブリンによるクエスト社の兵器の実験現場への襲撃と基本的には変わるところが無い。

調和の日の祭典をカメラで撮影していたピーターは²⁴⁾、グリーン・ゴブリンがオズコープ社の役員達の多くを殺害した後に、スパイダーマンとして蜘蛛の糸を使い空中を飛んで現れ、グリーン・ゴブリンと戦って最終的には彼を逃走させることに成功するのであるが²⁵⁾、グリーン・ゴブリンは、或いはグリーン・ゴブリンがその欲望を代行するノーマン・

オズボーンは、既にその目的は達成しているのであって、MJ を救出することが出来たとはいえ、スパイダーマンの登場は実は些か遅すぎたのである。

では次に、ここまで自らの変化に気付いて来なかったノーマン・オズボーンがどのようにしてそれに気付くことに成るのかを問題とする。

4. ノーマン・オズボーンによる自らの変化の認識

ノーマン・オズボーンが自らの変化を認識するのは、グリーン・ゴブリンによる最初の襲撃の場面の後で、ハリー・オズボーンがMJ と電話で会話する場面を挟んでのことである (ch.11, 1:12.11-)。ノーマン・オズボーンは、朝からウィスキーをストレートで少なからぬ量飲んでいるのだが、このこと自体がノーマンの精神状態の不安定さを如実に表している。その時彼はグリーン・ゴブリンの笑い声を耳にする。ノーマンは、最初は壁に飾られた幾つかのマスク (仮面)²⁶⁾ に視線を向ける。これは、グリーン・ゴブリンのスーツ、取り分けその中のマスクを想起させる演出である。しかしその後グリーン・ゴブリンの声に導かれる様にして、ノーマンは鏡の中の自らと対峙する。鏡の中にいるのは、姿こそノーマン・オズボーンであるが、グリーン・ゴブリンの正体としてのノーマンである。鏡の周囲には矢張り複数のマスクが飾られていて、ノーマンの姿をしてはいるが、鏡像の正体はグリーン・ゴブリンであることが強く示唆されている。最初は長回しで、鏡の中のノーマン＝グリーン・ゴブリンは、ノーマンにとって都合の良い出来事が立て続けに起きたことは決して偶然ではないこと、自分はノーマンには言えないことを言い、出来ないことをして、ノーマンの邪魔と成る者を取り除き殺害する (remove) と語る。鏡に近付いて行ってから振り返ったノーマンは、ここで手にしていた『デイリービューグル』紙の朝刊の紙面を見て、オズコープ社の主要な取締役達が殺されたことを知る²⁷⁾。ここからは、ノーマンと鏡の中のノーマン＝グリーン・ゴブリンがショット／リヴァースショットで交互に描かれる。鏡像であるのに、鏡の中のノーマン＝グリーン・ゴブリンは切り返しで捉えられるノーマンとは表情が全く違い、自分はノーマンが吸引した薬剤が原因で誕生し、ノーマンの願望を実現しているのだと言う。ノーマン＝グリーン・ゴブリンは、邪魔者は一人

(つまりスパイダーマン)であり、彼を仲間に加えたいと語る。

この場面が、ノーマンとノーマン＝グリーン・ゴブリンを見事に演じ分けるウィレム・デフォーの卓抜な演技力に支えられていることは言うまでもないが²⁸⁾、もう一つ注目すべき点がある。それは、鏡を見て自分の変化に気付くという演出は、ピーター・パーカーが自らの変化に気付く時の演出と明らかに似ているということである。この場面の最後で、ノーマン＝グリーン・ゴブリンが、名前は出さないがスパイダーマンに事実上言及していることは、こうした演出上の類似性にも支えられている。『スパイダーマン』の中で、ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンは、対比される一方で類似性も強調されているのであり、こうした対比と類似性の強調によって、両者は単純な善悪の対立を越えた複雑で両義的な関係を取り結んでいるのである。

5. スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの二度目の接触

スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの二度目の接触は、まずは『デイリービューグル』紙の編集部で行われる (ch.12, 1:14.19-)。編集長とピーター・パーカーとの会話の中で、編集長がクエスト社の調和の日の祭典を襲撃した正体不明の人物をグリーン・ゴブリンと名付けたことが語られる。因みにピーター・パーカーはしばらく前から (ch.10, 1:00.42-)、スパイダーマンの写真を撮影して『デイリービューグル』紙に売ることによって収入を得ている。ピーターは編集長がスパイダーマンをグリーン・ゴブリンと同列にニューヨークの人々に対する脅威と見做すことに抗議するが、編集長は聞く耳を持たない。尚ここでも、ピーター・パーカーの背後の壁を薄い緑色にして、ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの類似性を暗示する演出が行われている。そこにグリーン・ゴブリンが窓を突き破って襲撃して来る。グリーン・ゴブリンは編集長に、スパイダーマンの写真を撮っているカメラマンが誰であるかを尋ねるが、言うまでもなく、そこから辿ってスパイダーマン本人に行き着くことが目的である。編集長はメールで連絡していてカメラマンが誰であるかは知らないという明らかな嘘をつく。スパイダーマンに関して根拠の無い批判の記事を掲載し

続けていても、彼は情報提供者のプライバシーは明かさないとマスコミの人間としての倫理を貫いており、又、邪悪で危険なグリーン・ゴブリンからピーターを守ろうとしている。

ここでスパイダーマンが窓の外に登場する²⁹⁾。矢張りスパイダーマンとグリーン・ゴブリンは一味だったのかと言う編集長の口をスパイダーマンは蜘蛛の糸で塞ぐが、何故かここでも上下逆さまに降りて来たスパイダーマンは³⁰⁾、グリーン・ゴブリンのスーツの手首から放出される睡眠剤を吸って落下し、グライダーに乗ったグリーン・ゴブリンに助けられ、グリーン・ゴブリンは彼を連れてそのままその場を離れる。

その後、どこかのビルの屋上で、グリーン・ゴブリンはスパイダーマンを起こすと、人々はヒーローの活躍以上に、ヒーローが失敗し転落し努力しながらも死ぬところを見たがるのであって、ヒーローは幾ら尽くしても最終的に人々に憎まれるのだと語り、自分と仲間にならないかと誘う³¹⁾。自分の行っていることは正しいことだというスパイダーマンの反論に、グリーン・ゴブリンはその頭を子ども扱いする様に叩いた後に³²⁾、(ニューヨークに住む) 800万人もの人々の中で自分達はその頂点に位置する例外的な存在であり、殺そうと思えば今すぐ殺せるスパイダーマンを殺すことはしない、手を組んで自分達にしか出来ないことを達成しようと誘ってからグライダーに乗ってその場を去る。

この場面では、グリーン・ゴブリンが自分とスパイダーマンは似ていると語り、スパイダーマンが自分はグリーン・ゴブリンの様に人を殺しはしないと否定する。これは、スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの類似性と対照を重ねて強調する点で極めて重要である。繰り返しに成るが、スパイダーマンとグリーン・ゴブリンには同じ日に生まれ、超人的な能力を持ち、例外的な場合を除いて抑圧されているかそれとも剥き出しに成っているかの違いは有るにせよ両者とも邪悪さを持っている(勿論、邪悪さを一切持たない人間など存在しない)という類似性が有るが、ピーター・パーカー／スパイダーマンは平和を望む穏やかで基本的には統一的な人格を持っているのに対して、グリーン・ゴブリンはノーマン・オズボーンとは人格が分裂していて、秘められ抑圧されていた筈のノーマンの邪悪な欲望をそのまま実行に移す凶暴さと残忍さを持つという点でピーター・パーカー／スパイダーマンとは対照的である。

グリーン・ゴブリンの申し出をスパイダーマン(ピーター・パーカー)

が拒絶することはこの映画を観ている観客全てが予想することであろうが、それが実際にどのように行われるのかを次に確認しよう。

6. スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの三度目の接触、二度目の戦い

スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの三度目の接触にして二度目の戦いは、MJの二度目の救出の場面を挟んで、火災現場からの赤ん坊の救出後に行われる (ch.13, 1:23.20-) ³³⁾。おじベンを殺した男を殺害した嫌疑で警察に追われているスパイダーマンは、火事と成っている建物から聞こえてきた女性のものと思しき叫び声に再び建物の中に戻るのだが、待ち構えていたのは布に身を包んで正体を隠していたグリーン・ゴブリンである。グリーン・ゴブリンは、いきなりスパイダーマンを殴って突き飛ばしてから、「仲間に入るのか、入らないのか? (Are you in or are you out?)」と自らの提案への回答を迫るが ³⁴⁾、体の後ろに隠したその右手には刃と成った複数の回転翼を備えた飛行体が握られていて、彼はスパイダーマンの答えが拒絶であることを既に予見している。「終わっているのは、ゴブリン、お前だ。頭がおかしい。(It's you who's out, Gobby. Out of your mind.)」と言うスパイダーマンにグリーン・ゴブリンは「間違った答えだ。(Wrong answer.)」と叫んで複数の飛行体を投げ付けて、その後のグリーン・ゴブリンとの闘いの中で避け切れなかったスパイダーマンは左前腕部に裂傷を負うが、火事による三度目の爆発に合わせてその場から待避する。

ここで、グリーン・ゴブリンの正体を知らないスパイダーマン (ピーター・パーカー) が、グリーン・ゴブリンが正気を失っていることを正しく指摘していることに注目すべきであろう。スパイダーマン (ピーター・パーカー) は、調和の日の祭典をグリーン・ゴブリンが襲撃した本当の理由は知らないのだが、ノーマン・オズボーンの邪魔に成る中心的な重役達を殺害するのみならず、無関係な祭典の参加者達をも危険に晒すという行為は、明らかに常軌を逸したものである。正気を失った人物と組むことはピーター・パーカー／スパイダーマンにとって絶対に有り得ないことである。

しかし、グリーン・ゴブリンとの二度目の戦いの次の場面 (ch.13,

1:25.10-) で、感謝祭に七面鳥を食べようとする際に³⁵⁾、ピーターが先に触れた左腕の裂傷をおばメイに気付かれた結果として、スパイダーマンの正体がピーター・パーカーであることがノーマン・オズボーン=グリーン・ゴブリンに露見し³⁶⁾、スパイダーマンを仲間に加えることを既に断念していたノーマン・オズボーン=グリーン・ゴブリンは、ピーターの周辺の人物に危害を加えスパイダーマンをおびき出すという方向に戦略を転換する。以後、その成り行きを分析する。

7. グリーン・ゴブリンによるピーター・パーカーのおばメイへの襲撃と MJ の拉致

スパイダーマンの正体がピーター・パーカーであることに気付いたノーマン・オズボーン=グリーン・ゴブリンは、七面鳥を食べようとしていたところを中断して、ただ用事を思い出したと理由をきちんと言わずに立ち去り、その際には、廊下で止めようとするハリーに MJ のことを悪し様に言い³⁷⁾、それを部屋の中で聞いて怒った MJ も帰宅してしまう。

次の場面では、空中に浮かんだグリーン・ゴブリンのマスクとノーマン・オズボーンとの間で会話が交わされる (ch.14, 1:29.56-)。グリーン・ゴブリンのマスクが空中に浮かんでいる理由は分からないが、これはもしかしたらノーマンが見ている幻影であるかも知れない。グリーン・ゴブリンは、最初にクローズアップで、しかもカメラの寄り（前進移動）を伴って映されることでそのノーマンに対する優位が強調される。その後ショット／リヴァースショットと成り、ノーマンが、引きのショットでグリーン・ゴブリンのマスク越しに捉えられ、その後ノーマンとグリーン・ゴブリンがそれぞれ引きのショットで示されるが、続けてグリーン・ゴブリンを捉えた引きのショットにノーマンがフレームインすることから、グリーン・ゴブリン=ノーマン・オズボーン（抑圧されたノーマンの欲望が肥大化した人格）が実は気の弱いノーマン・オズボーンを支配していることは明らかである。グリーン・ゴブリンは、スパイダーマンは「殆ど無敵」だが、パーカーならば「破滅させる (destroy) ことが出来る」と言い、その方法を問うノーマンに「狡猾な戦士は肉体 (body) も精神 (mind) も攻撃せず」に、「心／感情

(heart)」を攻撃するのだと語る。

その為の方法は、ピーター・パーカーの身近な人間を襲撃することである。グリーン・ゴブリン＝ノーマン・オズボーンは、先ずピーターのおばメイを襲う (ch.14, 1:30.39-)。亡き夫ベンの写真を見ながら主の祈り (主禱文) を唱えているおばメイをグリーン・ゴブリンが襲撃する。その瞬間は、丁度おばメイが「我らをこころみにあわせず、(…) 救い出したまえ。(Lead us not into temptation, but deliver us)」まで祈ったところで、「悪より (from evil)」と言おうとしているところを³⁸⁾、正に邪悪さの権化とも言うべきグリーン・ゴブリンが襲い、部屋は炎で包まれる。“Deliver us!” と叫ぶおばメイに、グリーン・ゴブリンは祈りを終える様に促し、おばメイは “From evil!” と叫ぶのだが、この祈りはグリーン・ゴブリンの前には全く無力である。

入院したおばメイのもとに駆け付けたピーター・パーカーは (ch.14, 1:31.10-)、看護師に制止されて病室外に出る。彼女は、恐らくは煙を吸ったことと襲撃のショックとから出た症状を抑制する為に薬剤の点滴を受けようとしているが、彼女が「あの恐ろしい黄色い両眼！」と殆ど叫ぶ様に口にするのを聞いて、ピーターは襲撃がグリーン・ゴブリンによるものであったこと、自分がスパイダーマンの正体であることがグリーン・ゴブリンに知られていることに気付く³⁹⁾。しかし、ピーターにはそれが何故であるかは不明である。ピーターにはグリーン・ゴブリンが実はノーマン・オズボーンであることが全く分かっていないからである⁴⁰⁾。

おばメイが或る程度回復したところで MJ が見舞いに訪ねて来るが (ch.14, 1:32.25-)、ずっと病室で殆ど寝ているおばメイに付き添っていたピーターは、MJ と会話し、MJ がハリーからの電話に出ておらず、既に木村 2022b:40 (9) でも触れた通り、顔も知らないスパイダーマンのことが好きだと思うと聞かされて、自分がスパイダーマンに訊かれて口にしたということにしてある MJ についての印象を語る、というよりは殆ど愛の告白をする。MJ は、これも既に上掲の箇所ですべた通り、ピーターの手を握り、ピーターもその手を握り返すのだが、丁度そのタイミングで病室に入って来たハリーに、彼が入ってくると直ぐに握り合った手を離すとはいえ、その様子を見られてしまう。これも既に触れた通り、おばメイは途中から起きていて二人の会話を聞いているのだが

寝た振りをしている。この時点で MJ には、自分が実はピーター・パーカーのことを愛しているという自覚は無いのだが、ハリーはそれを直ちに理解する。

この場面では、MJ とピーター・パーカーのショット／リヴァースショットに際してのそれぞれへのカメラの前進移動（この前進移動が先に始まるのは MJ に対してである）と MJ とピーターの極端なクローズアップ（カメラは MJ への寄り方が些か強い）、そして MJ の表情の明確な変化とが、二人の関係の進展を表現し、又二人の、特に MJ の感情の高揚をはっきりと示している⁴¹⁾。

MJ は自分がピーターを愛していることに未だ気付いていないが、ハリーはそのことを直ちに理解する。続く場面（ch.14, 1:35.51-）で、ハリーは父ノーマン・オズボーンに、MJ はピーターのことを愛していて、ピーターは4年生の時から MJ のことが大好きなのだと告げる⁴²⁾。無敵のスパイダーマンと戦う前に、その正体であるピーター・パーカーの愛する人々を攻撃して彼の心／感情を破壊しようとするノーマン・オズボーン＝グリーン・ゴブリンの策略がまたしても行われることに成り、今回の標的は言うまでもなく MJ である。

病室でおばメイから、「教えて、あなたがどれ位メリー・ジェーンのことが好きなのか彼女に知って貰うとしたらそんなに危険なの？ 他の人は誰でも知っている（のに）。」と問われたピーターは、MJ がグリーン・ゴブリンに襲撃される可能性に思い至って慌てて彼女に電話するが、彼女の応答メッセージに続いてグリーン・ゴブリンが電話に答えて、ピーターはスパイダーマンとして、グリーン・ゴブリンに呼び出された場所、愛して止まない MJ が拉致され連れ去られた場所へと向かうことになる⁴³⁾。

8. スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの四度目の接触、三度目の戦い

ピーター・パーカー／スパイダーマンは、クィーンズボロ橋の近くで、グリーン・ゴブリンと三度目の戦いを迎える（ch.26, 1:39.36-）⁴⁴⁾。MJ の首を左手で掴み、子ども達の乗ったケーブルカー tram のケーブルを右手に握ったグリーン・ゴブリンは、両者を同時に離し、どちらを救う

かの選択をピーター・パーカー／スパイダーマンに迫る⁴⁵⁾。グリーン・ゴブリン（実はノーマン・オズボーン）は、両者を救うことは無理であり、愛する MJ を優先して救って子ども達を死なせてしまったら、ピーター・パーカーは心に深い傷、一生かけても癒やし切れない傷を負い、それはスパイダーマンの戦闘力の著しい低下を齎すであろうと考えている。ノーマン・オズボーン＝グリーン・ゴブリンは、冷静な判断力を失って力が非常に弱まったスパイダーマンを難なく倒すことが出来る筈である。

しかしスパイダーマンは、グリーン・ゴブリンが同時に落下させた MJ とケーブルカーとを、一瞬の逡巡の後に、駆け出し空中に飛び出して、先ず MJ を抱き留めた後で、首から左肩の下を MJ に両手で掴ませたまま右手ではケーブルカーを吊していたケーブルを握ってその落下を食い止め、左手から放った糸を使って橋からぶら下がり、MJ とケーブルカーの子ども達の両方を同時に救うという正に離れ業を見せることは既に木村 2022b:37 (12) でも述べた通りである⁴⁶⁾。そしてそこで述べた様に、グライダーから刃を出してスパイダーマンにとどめを刺そうとするグリーン・ゴブリンに対して、人々が様々なものを投げ付けて加勢することによってスパイダーマンは死を免れ、MJ はスパイダーマンに助けられた後は自力で生還を果たし、子ども達は無事に救出される⁴⁷⁾。

その後グリーン・ゴブリンによって廃墟に連れ込まれ、一方的に攻められ続けたスパイダーマンは、グリーン・ゴブリンが MJ に危害を加えることを口にしたことを切掛けに攻勢に転じて、遂には攻め続けられたグリーン・ゴブリンが自らの死を招くことになることも木村 2022b:37 (12) -36 (13) で論じた通りである⁴⁸⁾。MJ への愛はピーター・パーカー／スパイダーマンの支えと成る大きな力を与えるのである。

ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンには、科学に造詣が深く、同じ日にスパイダーマン或いはグリーン・ゴブリンと成り、超人的な力を持つ、といった共通点があるが、ピーター・パーカー／スパイダーマンは平和を守る為に働き、人を殺すことはせず、人々を救い続けるのに対して、ノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンは、自らの邪悪な欲望を実現する為に行動し、人々を殺しまくり、或いは人々に危害を加えて奈落の底に落とすという点では全く対照的である。そして、ピーター・パーカー／スパイ

ダーマンは、恐らくは妻に逃げられ離婚されて女性を信じる事が出来ないノーマン・オズボーンとその邪悪な側面が肥大化したグリーン・ゴブリンとは違って、愛を、そして愛の力を信じている。ピーター・パーカー／スパイダーマンに最終的に力を与えてくれるのは正義感であると同時に、或いはそれ以上に、MJ への愛なのである⁴⁹⁾。

結論

本論文では、ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの間には多くの類似性が存在するにも関わらず、両者の間には様々な対照も描かれ、両者は決定的な側面では激しく対立することを示した。

ハリウッド映画、或いはアメリカ映画は、ここで詳細に論じる余裕はないが、1940年代後半、或いは1950年代以降、単純な善悪の対立という図式には必ずしも従わない方向へと少しずつ進んで来たが、勿論他方でそうした図式は現在に至るまで根強く生き残っている。サム・ライミ監督の『スパイダーマン』は、ヒーローと悪役との間に有る様々な類似点が丁寧に描写されていて単純な図式には還元出来ないが、最終的には善が悪に、愛を信じる者が信じない者に勝利を収めるという、複雑さを孕みつつも善と愛の人間にとっての決定的な重要性を描いた映画である。

勿論、『スパイダーマン』には、木村 2022a で論じたように、世界の平和と秩序をただ一ヶ国でも守り抜くアメリカ合州国の立場を強調する側面があり、そうした側面が2001年9月11日のワールド・トレード・センターとアメリカ国防総省本庁舎（ペンタゴン）へのタリバンによるテロ以降の再撮影を加えての編集によってより強化されたことは間違いない。しかし、ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの幾つかの類似性を描くことは、そうした単純なもの見方に一定の歯止めを掛けることに繋がっているのではないか。アメリカ合州国の象徴であるピーター・パーカー／スパイダーマンは、映画の中で過ちも犯し、完全無欠のヒーローからは実は程遠いのである。又、木村 2022b で論じたように、MJ の成長が描かれるとはいえ、『スパイダーマン』が未だに多くの点で男性中心主義的であること

も否定し難い。

しかし『スパイダーマン』は、こうした欠点、或いは難点を孕みつつも、単純に善悪二元論的に分割出来ない様々な類似性をピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの間に示しつつ、最終的には正義と愛を希求するピーター・パーカー／スパイダーマンの邪悪なノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンに対する勝利とともに終わる。ピーターがMJの愛の告白を受け入れることが出来ないという重大な問題点を『スパイダーマン2』 *Spider-Man 2* (2004年)に持ち越すという事は有るにしてもである⁵⁰⁾。人生の持つ様々で複雑な様相をかなり具体的に示しつつも、『スパイダーマン』は正義と愛という理念を強く訴えて終わるのであり、これは当時のアメリカ合州国の些かに独善的であった正義を全肯定することでは決してない。『スパイダーマン』は、様々なヴァリエーションを孕みつつも一貫性を持った演出を通じて、複雑で多様な価値観を提示しつつ、理想と愛を追求することとその難しさを示し、しかし矢張り最終的にはそこにこそ圧倒的に多数の場合には人間の生の目的があることを強く訴える映画なのである⁵¹⁾。

注

- 1) Blu-ray Disc に所収のプロデューサーの一人ローラ・ジスキン Laura Ziskin のコメント (ch.2, 0:06.55-) によれば、この場面は実際にはロサンゼルス自然史博物館で撮影されているが、そうしたことは映画『スパイダーマン』に於いては珍しくないで、これ以降は一々言及することはない。使用されている特殊効果やCG合成についても、映画の主題や構造、演出等々と密接に関連する場合を除いては原則として触れない。
- 2) 息子ハリーが入った私立高校を次々と辞めて公立高校に通っていることにノーマンが強い不満を抱いていることが車中の会話で語られる。
- 3) 尚この箇所の少し前に加えられたローラ・ジスキンのコメント (ch.1, 0:04.42-) によれば、エグゼクティブプロデューサーであるアヴィ・アラッド Avi Arad が主導してコミック『スパイダーマン』の映画化が決まってからそれが実現するまでに少なくとも18年は掛かっている。ジスキンは映画化の実現が遅れたお陰で最先端のテクノロジーが使えたと語っているが、実はCG合成等のテクノロジーが十分に発達していなかった為に映画化が進まなかったのであろう。1980年代半ば前後に、例えば、ニューヨーク市街の空中を飛び回るスパイダーマンの姿をCG合成することが可

能だったとは凡そ考え難く、映画化は2000年代に入ってテクノロジーの充分な発達があったからこそ可能に成ったのである。

- 4) 但しおじベン Ben (クリフ・ロバートソン Cliff Robertson) とおばメイ May (ローズマリー・ハリス Rosemary Harris) とピーターとは、おじベンがピーターのついでに嘘が切っ掛けとなって殺されてしまう (ch.7, 0:43.06-) までは、裕福ではないが仲良く幸福に暮らしていて、その後も、おばメイとピーターとは、グリーン・ゴブリンによるおばメイへの襲撃という例外的な事態 (ch.14, 1:30.39-) はあるものの、ピーターがニューヨークに出て以降もそれぞれに幸せに生活している。対してノーマン・オズボーンと息子ハリーは、映画終盤での和解 (ch.14, 1:35.51-) までは不仲であり、又ノーマンは、感謝祭に際してのハリーとのメリー・ジェーン・ワトソン Mary Jane Watson (以下 MJ と表記する、キルステン・ダンスト Kirsten Danst) を巡る会話 (ch.14, 1:28.52-) から推察するに、金目当てに自分と結婚した妻にしてハリーの母親に離婚され、多額の慰謝料を払っており、裕福ではあるが家庭の面では決して幸福ではない。
- 5) ここで、飼育槽の中の蜘蛛が15匹いると説明する女性研究員に対して MJ が1匹いないと指摘している点にも注目すべきである。MJ は鋭い注意力と観察力を持っている。木村 2022b:46 (3), 37 (12) で指摘した通り、MJ がスパイダーマンに二度に渡って「気を付けて! (Watch out!)」と叫んで注意を促すのは、こうした注意力と観察力による。

又、引率している男性教員がアフロアメリカン系で、説明している女性研究員が東アジア系であることは、民族的、人種的多様性を映画に取り入れようとする試みである。但しこの論文では、人種概念に科学的根拠が全く無いこと、しかしそれが2002年の『スパイダーマン』公開の時点にとどまらず、現在でも少なからぬ数の人々にいまだに信じられ続けていることについては議論しない。尚アフロアメリカン系の俳優を映画に積極的に登用しようとする、或いは出演俳優の「民族的多様性」に配慮しようとする、その為に物語に不要なものや不自然なものを強引に取り込むといったことがなければ、基本的には必要で重要なことであると木村は考える。人種概念に科学的根拠が無いこと、にもかかわらず人種による違いがいまだに多くの人々に信じられ続けていること、人種概念の辿ってきた歴史的経緯、人種概念・人種主義と優生学・優生思想との複雑な関係等々について文献は多数あるが、例えば竹沢編 2005、川島 2012、ジョルダン 2013、ベルトラン 2013、斉藤・竹沢編 2016、坂野・竹沢編 2016、川島・竹沢編 2016、エバーハート 2020、平野 2022等を参照。平野 2022:12によれば国連総会で「人種差別撤廃条約」が採択されたのは1965年、発効は1969年にまで遡る (但し日本がこれを批准したのは平野 2022:244によれば実に1995年のことである)。実は民族概念についても根拠が充分で

あるかは極めて疑わしいのであるが、そこまでは本論文では問題としない。

付言すれば、この場面でハリーがピーターから聞いた蜘蛛についての知識を MJ に話して聞かせることで彼女に近付こうとしていることは、ハリーと MJ が映画の後半で交際を始めることの伏線となっており、本論文の中心的な主題ではないが、ピーターと MJ の恋を考える際の文脈として矢張り注目すべきである。

- 6) 勿論こうした演出は、これ以降に指摘するものの内の多くも含めて、観客がはっきりとは気付かない内に彼／彼女等に与える潜在的な効果を狙ったものである。
- 7) この副作用を深刻なものと捉え製法 (formula) に戻っての再検討が必要であるとするストロム博士と、軽微なものと捉える、というよりはスローカム将軍に2週間という期限を切られてオズコープ社が危機的な状況であり、それを重視してはられないノーマン・オズボーンとは、意見が激しく対立している。
- 8) 映画本篇へのトビー・マグワイアのコメントによれば (Blu-ray Disc に収録され、話し相手は J・K・シモンズ)、この身体は別人のものを特殊効果で合成したものであり、先に撮影した別人の動きに合わせて彼は動いている。この点についてより具体的には、同じ場面、及びその前の部分への視覚効果スタッフ或いは特殊効果スタッフであるジョン・ダイクストラ John Dykstra、アンソニー・ラモリナラ Anthony LaMolinara、スコット・ストックダイク Scott Stokdyk のコメントも参照。

トビー・マグワイアは、矢張り Blu-ray Disc 所収のコメントによれば (ch.2, 0:07.41-)、撮影の4・5ヶ月前からトレーニングによって筋肉を鍛え上げている (別の箇所 (ch.3, 0:18.26-) では、トビー・マグワイアは、5ヶ月間、毎日4時間、週6日、栄養士とトレーナー付きでトレーニングし、ヨガ、マーシャルアーツ、体操も習ったとコメントしている)。尚、トビー・マグワイアは撮影の2・3ヶ月前からはサム・ライミと他の俳優達と共に場面毎のリハーサルを始め、それぞれの場面が映画内で占める位置についても議論したと最初に挙げた箇所についてコメントしている。同じ場面へのプロデューサーであるローラ・ジスキンのコメントも参照。

- 9) 変装したイヴ・ジルが鏡を直視し、眼鏡を掛けると、イヴは裸眼で充分にものが見えるので鏡像がぼけ、眼鏡を外すと鏡像がハッキリと見える。この鏡を正面から捉えたショットは、実際には鏡ではなくガラスを用い、その向こうにいるイヴを撮影して眼鏡を掛けるタイミングに合わせてカメラのピントをぼけさせたものであることは映像を観れば一目瞭然である。『スパイダーマン』では、CG 合成が用いられていて (真ん中のピーター・パーカーの鏡像の左右にも、彼の部分的な鏡像が見えていて、これは CG による処理であろうし、カメラが鏡を正面から捉えることは写り込みを考

えれば不可能である)、カメラのレンズの前で巨大な眼鏡状のものが上下するのが示されるという工夫が加わっているが、眼鏡を掛けると鏡像がぼけて、眼鏡を外すと鏡像がはっきり見えるという点は『舞台恐怖症』の上記の場面と同じである。この場面の撮影についてはローラ・ジスキンのコメントも参照。

- 10) 正確には、その前に走りながら窓ガラスを叩く手が、ピーターのこの映画への初登場時のショットであり、サイドミラーのショットとバックミラーのショットの間には、バスを追いかけそれに乗り込む彼の後ろ姿のショットが挿入されている。
- 11) ここで場面の最初の方に映る壁が薄い緑色であることに、ピーター・パーカー/スパイダーマンとノーマン・オズボーン/グリーン・ゴブリンの類似性を示す意図を見て取ることが出来る。
- 12) この場面については、木村 2022b:33 (16) 注 3) でも簡単に触れている。
- 13) キルステン・ダンストは Blu-ray Disc に所収の *Behind the Ultimate Spin* (Producer and Director: Greg Socher, Columbia Pictures Industries, Inc, 2002) の中でコメントで (0:10.44-)、MJ は親に暴力を振るわれて育ったとコメントしているが、この親とは父親である。
- 14) フラッシュがそれなりの金持ちの家の育ちであること、MJ が交際相手を選ぶ際に、相手のことが本当に好きかどうかではなくその男性の社会的立場を気にしていることについては木村 2022b:45 (6) を参照。
- 15) この映画では、或いは、ハリウッド映画、又はアメリカ映画では一般的な約束事として、プロレスでは基本的な筋書きも勝敗も予め決まっていることが無いこととされる。但し、一定以上の実力のプロレスラーならばアマチュアの参加者を倒し続けることは苦でもないので、この設定は些かも無理ではないが、但しプロレスラーならば素人の参加者にこの場面 (ch.6, 0:36.41-) の様に大怪我を負わせることはない。因みに、ボーン・ソー Bone Saw を演じるランディー・サベージ Randy Savage は著名なプロレスラーであるが、彼の起用は、ローラ・ジスキンのコメントによればオーディションによる。
- 16) この時ピーターの背後にある壁も薄い緑色であり、これはピーターの中にあるグリーン・ゴブリンに通じる邪悪さを示唆している。
- 17) この場面が初出であり、編集長 (J・K・シモンズ J.K. Simmons) を登場させたり、ピーターがカメラマンとしても活動して収入を得る為にスパイダーマンの写真を『デイリービューグル』紙に提供し始めたりする前から、この新聞を登場させて観客に印象付ける演出である。
- 18) コミックではグリーン・ゴブリンは両眼も歯も白い。Stan and Ditko 2009:74-96 (初出は *The Amazing Spider-Man*, vol.14, July, 1964) を参照。コミック以外では、『スパイダーマン』の Blu-ray Disc に所収の前掲

Behind the Ultimate Spin の例えば 0:23.12-、或いは同じディスクに所収の *Spider-Man: The Mythology of the 21st Century* (Director: Josh Dreck, Producer: Eric Matthies, Columbia Tristar Home Entertainment Inc, 2002) の 0:06.53- 等に示された原作の画面を参照。

因みに原作では、グリーン・ゴブリンの登場は、『スパイダーマン 2』*Spider-Man 2* (2004) に登場するドク・オック Doc Ock や『スパイダーマン 3』*Spider-Man 3* (2007) に登場するサンドマン Sandman よりも遅く、映画『スパイダーマン』で最初の悪役としてノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンを登場させるのは、ピーター・パーカー／スパイダーマンとの類似と対照を印象付けることを狙って周到に考えての上であることはこうした点からも明らかである。

映画ではグリーン・ゴブリンの開いた口が基本的に黒い色であるのは、黄色い両眼以外は全身が緑色だという印象を可能な限り損なわず、しかしそこが口であることは或る程度ははっきりと示す為であろう。但し、場面によっては炎が映り込むなどして銀色の歯や口の中がかなりははっきりと、時には赤味掛かって見えることがある。例えば、『デイリービューグル』紙の編集部をグリーン・ゴブリンが襲う場面 (ch.12, 1:14.56-) や火事に成った建物の中でスパイダーマンがグリーン・ゴブリンと戦う場面 (ch.13, 1:23.38-) がそうである。

- 19) 典型的で分かり易い例としては、アルフレッド・ヒッチコックの『めまい』*Vertigo* (1958) におけるヒロインの「マデリーヌ Madeleine」(キム・ノヴァク Kim Novak) が身に着けるドレスの中の緑色と、例えば彼女が始めて登場する時のレストランの赤い壁との対比を想起された。
- 20) 付け加えれば、「卒業生／御目出度う！ [Congratulations/Graduates!]」(／は改行) とある幕の文字も緑色であり、垂れ下がる多数の紐状の飾りも白と緑が混ざったもの、多数の風船も白いものが混ざっているがその多くは緑色である。ピーターとノーマン・オズボーンとハリーの背景に緑の木々を配するのも意識的な演出である。
- 21) 高校を卒業したらニューヨーク・シティーに出るのだから、フラッシュと付き合い続ける理由はない。本当にフラッシュが好きで MJ が彼と付き合い合っていたのではないことがここからも分かる。
- 22) 後に登場する『デイリービューグル』紙上の表記 (ch.12, 1:13.34-) ではフルネームはマクシミリアン・ファーガス Maximilian Fargas である。細長いテーブルを囲む様に着席する役員達の中で、ノーマン・オズボーンとマクシミリアン・ファーガスがその両端に座っていることは、ファーガスの権力の大きさをはっきりと示している。
- 23) この場面では、ノーマン・オズボーンの顔の向きの変化に合わせて空間の 180 度システム 180° system (空間の三方向性 three-directionality of

space) を守らずにカメラがセンターライン center line を越える演出が用いられ、不穏さが演出されている。

但し、空間の 180 度システムを守りセンターラインを越えないこと、或いは越えることとショット／リヴァースショットに於けるイマジナリーラインを守ること、或いは越えることとの関係については、両者を基本的に同じものと見做す考えを持つ映画学者がいるのに対して、木村は、180 度システムを守ること、或いは守らないことを、ショット／リヴァースショットに於けるイマジナリーラインを守ること、或いは越えることの上位に置くべきであると考えている。そのように考える理由を極簡単に述べておくと、イマジナリーラインを越えない形でも空間の 180 度システムを守らない演出はハリウッド映画やアメリカ映画、或いはそれらの影響を受けた他の国々や諸地域の映画に多数見られ、又この場面がそうである様に、センターラインとイマジナリーラインが一致していない場合も少なくないからである。この場面では 2 本のイマジナリーラインがセンターラインとはそれぞれ些かにずれており、空間の 180 度システムが守られない際にはカメラは 2 本のイマジナリーラインの間に配置されていて、それぞれのイマジナリーラインはそれぞれのショット／リヴァースショットに於いては守られていても、後のショット／リヴァースショットでは先のショット／リヴァースショットのイマジナリーラインが越えられており、その結果としてより上位のセンターラインは守られていない。

空間の 180 度システムを守りセンターラインを越えないこと、或いは越えることとショット／リヴァースショットに於いてカメラがイマジナリーラインを守ること、或いは越えることとの関係について、両者を基本的に同じものと見做す考えの映画学者の代表はデイヴィッド・ボードウェルとクリスティン・トンプソンであり、近年ではそこにジェフ・スミスが加わっている (cf. Bordwell and Thompson 1979 → Bordwell et al. 2019:231-241, esp. 231-233, 239-241)。彼／彼女等はイマジナリーラインを空間の 180 度システムの基準となるセンターラインと同一視してアクション軸 (axis of action) と呼ぶが、このような考え方では上に挙げた様な反例を説明出来ない。

この問題については、具体例を多数取り上げての詳細な議論が必要である為、ここではこれ以上踏み込まないが、この論文の中で木村は、極簡潔にはあるが上述した理由から、空間の 180 度システムを守りセンターラインを越えないこと、或いは越えることが、イマジナリーラインを守ること、或いは越えることよりも上位の原理であるという立場で記述を行う。以後の空間の 180 度システム、或いはそれとイマジナリーラインの関係についての議論に関してはここでの記述を参照。

尚、ロケーション撮影による、或いは CG 合成を用いた屋外の場面では、

- 特に激しいアクションが展開される場合には空間の180度システムを守ることは難しいのだが(例えば、グリーン・ゴブリンによる一度目の襲撃の場面では、それは守られていない)、これは別に議論すべきことであろう。
- 24) ここでピーターは参加者の一人の女性が読む『デイリービューグル』紙の表紙で、スパイダーマンが悪人扱いされている見出しを目にする。これも『デイリービューグル』紙を、編集長が登場したり、ピーターとの間に具体的な関係が生じたりする前に再び登場させて観客に印象付けておく演出である。
- 25) スパイダーマンによるMJの一度目の救出とグリーン・ゴブリンの撃退については、本論文の必要を超えているが、より詳しくは木村2022b:47(2)-45(4)を参照。
- 26) これらのマスクや後出の鏡の周囲のマスクは、それらの初出時の場面への共同プロデューサーであるグラント・カーティス Grant Curtis のコメント(サム・ライミやローラ・ジスキンのコメントとともにBlu-ray Discに収録)によれば(ch.3, 0:21.23-)、セットの装飾を担当したカレン・オハラ Karen O'Hara が収集した本物であり、非常に貴重なものも含んでおり、小道具スタッフが作ったものではない。こうした点にも、ノーマン・オズボーンの人物設定のリアリティーを強めようとするスタッフの意思を見て取ることが出来る。
- 27) これほど重大な事態がこの時点までノーマン・オズボーンに知らされていないのは極めて不自然であるのだが、ここでは物語の構成上の必要性がリアリティーよりも重視されている。
- 28) ウィレム・デフォーは自分が一人二役を演じているとBlu-ray Discに収録された前掲*Behind the Ultimate Spin*の中で語っているが(0:08.23-)、これは一面に於いては真実であり、グリーン・ゴブリンがノーマン・オズボーンの秘められた邪悪な欲望を現実化する存在であるという面では必ずしも真実ではない。
- 29) 現れたスパイダーマンに対してグリーン・ゴブリンが“Speak of the devil.”(「噂をすれば影。’)と言っているのも興味深い。当のグリーン・ゴブリンこそ悪魔であるということも有るが、この言葉はスパイダーマン／ピーター・パーカーの中に潜み彼が努力して抑制している邪悪な側面(例えばおじベン殺しの犯人に対して見せた残虐さ)を言い当てているからである。
- 30) スパイダーマンがMJを二度目に救出した後に蜘蛛の糸にぶら下がって上下逆さまに降りて来ることについては、木村2022b:44(5)を参照。『スパイダーマン』では他にも、スパイダーマン(ピーター・パーカー)がおじベンを殺した男を廃墟に追い詰めたところでも、天井からぶら下がって降りて来るところがあるが(ch.8, 0:47.35-)、ここでは殺人犯はスパイダー

マンに気付かない。尚『スパイダーマン 3』でおじベン殺しの真犯人が別にいることが示されるが、これが後からの無理なこじつけである点については、木村 2022a:31 (26) 注 14) を参照。スパイダーマンが逆さまに降りて来るのは MJ の二度目の救出の際が三度目であり、そこでも三度の反復の効果が活用されていると考えることが出来る。

- 31) 既に木村 2022b:30 (19) 注 23) で触れた通り、ビルの屋上に到着して以降はグリーン・ゴブリンの両眼の黄色いレンズが収納されていて本人の目が見えていることは、顔全体が覆われていて素顔が全く見えないスパイダーマンとの対照を際立たせる為である。
- 32) これは、催眠ガスを吸わせる直前に、スパイダーマンから「子ども／おまえ (kiddo)」呼びわりされたことへの意趣返しでもある。グリーン・ゴブリンによるスパイダーマンの子ども扱いはこの後も続く。
- 33) MJ の二度目の救出と子どもの二度目の救出である赤ん坊の救出については、木村 2022b:42 (7) -41 (8) を参照。
- 34) 実は“in”と“out”という語は『スパイダーマン』の中で何度か使われていて重要な意味を持つのだが、その問題にここで深く立ち入ることはしない。二つだけ例を挙げておけば、取締役会の場面でマクシミリアン・ファーガスから辞職を迫られたノーマン・オズボーンは、「ノーマン、あなたは終わりだ。」(“You are *out*, Norman.”) と告げられる。その後グリーン・ゴブリンが調和の日の祭典でオズコープ社の取締役の内での中心的な人々に爆弾を投げて殺害する前に (ch.11, 1:07.29-)、グリーン・ゴブリンは「自分が終わりだって？」(*Out am I?*) と叫ぶ (イタリックはともに木村)。
- 35) この場面でも、空間の 180 度システムを守らない演出が行われているが、席に着いているピーター・パーカー或いは彼とおばメイを映すショットに於いてカメラがセンターラインを大きく越えていることは、ノーマン・オズボーンにスパイダーマンの正体がピーターであることが露見してしまうという事態から観客が受ける衝撃を増幅する効果を持っている。尚ここでは、ピーター・パーカーとノーマン・オズボーンの間のセンターラインを越えたショット／リヴァースショットも有るが (ピーターがセンターラインから 180 度の範囲を越えている)、それは空間の 180 度システムを守らない演出の一部であり、ピーター或いは彼とおばメイを映す一連のショットの後に現れる。
- 36) その経緯については木村 2022b:41 (8) でも簡単に触れた。
- 37) この会話の際も引き続き空間の 180 度システムは守られておらず、ノーマンはセンターラインに対して 180 度を大きく超えた側において、その発言の不快感と非礼ぶりが強調されている。但し、ここではイマジナリーラインは守られている。センターラインとイマジナリーラインを同一視してア

クション軸と見做すボードウェル等にはこうした事例の説明は不可能である。

- 38) 訳文は日本基督教団讃美歌委員会（編）1997:148に掲載された（日本聖公会を除く）プロテスタントの文語訳による。この文語訳は1880年のものとされ、2022年9月現在も用いられている。プロテスタントの訳文を用いたのは、おばメイと亡きおじベンとはアメリカで多数を占めるプロテスタントの信者である可能性が高いからであるが、日本のカトリック・聖公会共通口語訳（「2000年2月15日 日本カトリック司教協議会認可」）はカトリック協議会2000及び日本聖公会北海道教区札幌ミカエル教会を参照。但し、日本聖公会については訳文の認可の年月日が日本聖公会管区事務所のウェブサイトでは確認出来なかった。

サム・ライミは埋葬後の場面へのコメント（ch.16, 1:50.25-）で“priest”と言う言葉を使用しているが、この語は聖職者全般を指す場合も多く、これだけではカトリックの司祭かプロテスタントの牧師かは判断出来ない。

『スパイダーマン』と『スパイダーマン2』（2004年公開）のそれぞれとキリスト教との関係については木村2022a:24（33）-23（32）の注43）を参照。

- 39) ここでも空間の三方向性が守られていないが、それはおばメイが入院したことに、彼女を襲撃したのがグリーン・ゴブリンであることを知ったことが重なったピーター・パーカーの衝撃を観客に共有させる為である。
- 40) おばメイは襲われた当人であり、グリーン・ゴブリンによる一度目の襲撃の際に自分とMJとハリーは皆居たのだから、自分の怪我のを知っている人々の中でグリーン・ゴブリンである可能性が有るのはノーマン・オズボーンしかいないのだが、ピーターはノーマンのことを全く疑っていない。これはトビー・マグワイアがBlu-ray Discに収録された前掲の*Behind the Ultimate Spin*で語る様に（0:09.10-）、天才であり権力も持つノーマン・オズボーンに才能を認められていることをピーターが誇りに思っていることに大きく影響されてである。
- 41) この場面でも、MJへの最初のリヴァースショットから空間の180度システムが守られていないのだが、これは、MJがピーター・パーカーによる事実上の愛の告白に、無自覚なままだが、ピーターへの愛を感じて激しく心を動かされる、という事態の重大さを空間の三方向性を破る衝撃によって観客に伝えようとする意図からである。尚二人が座ってから空間の180度システムに従わないMJとピーターのショット／リヴァースショットが長く続いていたこともあって（ここではセンターラインからみて180度の外にいるのはピーターである）、そこでのイマジナリーラインが擬似的にセンターライン化していて、場面冒頭で設定された空間の180度システムに従っているはずのハリーの登場が、寧ろ擬似的にセンターライン化

したイマジナリーラインを破っているかの様な衝撃をこの場面に齎している。詰まりここでは、センターラインを越えることの衝撃とピーター・パーカーと MJ の間のイマジナリーライン（或いは擬似的なセンターライン）を越えることの衝撃とが、演出上の巧妙な計算に基づいて、二段構えに観客を襲う。

- 42) 木村 2022b:31 (18) 注 13) でも触れた通り、おばメイの言葉によれば実は六歳の頃からである。

尚この場面では、ハリーが父ノーマンを子どもの様に“Dad”と呼んでいることにも注目すべきである。MJ が実はピーター・パーカーが好きであると気付いて、ショックからハリーは子どもへと退行し父ノーマンに依存し、涙を流してさえている。

- 43) この間の経緯とより詳しい展開については、木村 2022b:40 (9) -37 (10) を参照。

- 44) この映画では木村 2022a や木村 2022b で述べた通り三度の反復が様々な活用されているが、スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの戦いも三度目であることについては木村 2022b:30 (19) 注 26) で指摘した通りである。

- 45) ここで、ケーブルカーの外にグライダーに乗って現れた時には黄色いレンズで隠されていたグリーン・ゴブリンの両眼が見えていて、顔が全く見えないスパイダーマンと対比されていることについては、既に木村 2022b:38 (11) -37 (12) で触れた通りである。

- 46) ここでも、スパイダーマンが MJ と子ども達の両方を助けて橋から蜘蛛の糸でぶら下がるまでは、空間の 180 度システムが守られていないことに注意すべきであろう。グリーン・ゴブリンに抱えられた MJ や落下する MJ を撮影するカメラアングルが空間の 180 度システム（空間の三方向性）に大きく違反している。これは事態の異様さと緊迫感を強調する為の演出である。尚木村 2022b:39 (10) で「7-8 才位かもう少し上」と書いた子ども達の年齢は、グラント・カーティスがこの場面に付したコメントによれば 9 才である。

- 47) ケーブルカーが救助に駆けつけた荷船に無事に下ろされ、MJ も助かるのを示すショットは、空間の三方向性をギリギリのところで守りつつ、MJ の姿をはっきりと映し、ロウズヴェルト・アイランドというケーブルカーの行き先を明確に示している。ロウズヴェルト・アイランドという行き先がここで出て来ることは（それはこのショット以前から画面に映ることが有ったのだが視認は難しい）、木村 2022a:44 (13) -35 (22) で論じたポピュリストコメディの影響を意識しての演出である。

スパイダーマンが糸で橋にぶら下がりて以降場所が変わる次の場面までは空間の 180 度システムが守られていることに注目すべきであるが、これは観客による登場人物達の位置関係の認識を混乱させない為である。スパ

イダーマン、MJ、グリーン・ゴブリン、ケーブルカーに乗った子ども達、橋の上の人々、ケーブルカーと MJ の救出に向かう船と、ここでは登場する人間やものの数が多く、空間の三方向性を守らないと位置関係の把握に混乱が生ずる。

- 48) ここでは空間の 180 度システムに対する二度の大きな違反が有り、空間の基本的な方向性が二度 180 度転換するのであるが (ch.16, 1:46.20-, ch.16, 1:47.39-)、この二度の転換と物語の内容との間に明確な連関は見付けられなかった (最初の転換はグリーン・ゴブリンが画面に向かって右向きから左向きに顔の向きを変えることで、二度目の転換はグリーン・ゴブリンが身体の向きを変えるのとタイミングを合わせることで、自然に見える様に配慮されている)。この二度の転換は、空間の三方向性を守り続けると、ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの二人という限られた登場人物達の運動方向が左右に限られていることもあって、場面が単調なものになってしまうからである (但し、この単調さはアクションの分かり易さに貢献している)。180 度の転換のタイミングをもっと物語の内容の展開と関連付けられなかったのかという疑問は残るが、アクションの見せ方の変化としては一定の効果을 上げている。
- 49) 但し、そのことが、ピーターが MJ の愛の告白を受け入れることに直結しないことについては、既に木村 2022b: 36 (13) -35 (14) で論じた通りである。
- 50) しかし、MJ を危険に巻き込まない為に彼女との恋愛を諦めるというピーターの決断は誤りであり、MJ との恋愛が続編では必ずや成就することを、公開当時に映画館でこの映画を観ていた観客の大多数は信じていたのではないか。目的を達成した主人公がヒロインと結ばれない結末は、ハリウッド映画、或いはアメリカ映画に於いては例外的で、この結末に怒りを感じる観客が多かったことは木村 2022b:30 (19) -29 (20) 注) 27 で触れたが、『スパイダーマン』の大ヒットにより続編が製作されることは確実で、ここではスパイダーマンの正体がピーター・パーカーだと知った MJ と彼が結ばれるという展開は、かなりの程度で予測可能であった。この予測は、MJ がピーター・パーカーとのキスの直後にスパイダーマンとのキスを思い出す様子を見せるという演出によっても強められていた。
- 51) とは言え、例えばアセクシャル (エイセクシャル) asexual な人々、即ち、他者に対して恋愛感情を抱くことがないか、恋愛感情を抱いても性的な感情は持たない人々が存在するので、例外を認めない過剰な一般化は差し控えるが、『スパイダーマン』が観客の大多数を異性愛者であると想定していることは疑いようがない。

映像資料

『スパイダーマン』、Blu-ray Disc、『スパイダーマン トリロジー』、「ブルーレイ コンプリートボックス」、4枚組、ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメント、2017年に所収。

『スパイダーマン2』、Blu-ray Disc、上掲『スパイダーマン トリロジー』に所収。

『スパイダーマン3』、Blu-ray Disc、上掲『スパイダーマン トリロジー』に所収。

『舞台恐怖症』、DVD、ワーナーホームビデオ、2004年。

本論文中で示したタイムコードは、Blu-ray Discのみを挙げてある場合はBlu-ray Discのものであり、DVDのみを挙げている場合にはDVDのものである。タイムコードはおおよそのものであり、特にディゾルヴやサウンドブリッジでの場面の繋ぎの場合には正確な時点を明記することは不可能である。

主要参考文献・資料

Bordwell, David, Janet Staiger, and Kristin Thompson 1985, *The Classical Hollywood Cinema. Film Style & Mode of Production to 1960*, Routledge & Kegan Paul.

Bordwell, David and Kristin Thompson 1979, *Film Art: An Introduction*, first edition, Addison-Wesley Pub.

Bordwell, David, Kristin Thompson, and Jeff Smith 2019, *Film Art: An Introduction*, twelfth edition, McGraw-Hill Education.

Burke, Liam 2015, *The Comic Book Film Adaptation: Exploring Modern Hollywood's Leading Genre*, University Press of Mississippi.

エバーハート、ジェニファー 2020、『無意識のバイアス：人はなぜ人種差別をするのか』、山岡希美訳、高史明解説、明石書店。（原著は2018年刊行。）

Gordon, Ian, Mark Jancovich, and Matthew P. McAllister (ed.) 2007, *Film and Comic Books*, University Press of Mississippi.

平野千果子 2022、『人種主義の歴史』、岩波新書。

藤井仁子 2008、「デジタル時代の柔らかい肌——『スパイダーマン』シリーズに見るCGと身体」、『入門現代ハリウッド映画講義』、藤井仁子編、2008年、人文書院、pp.67-94。

IMDb, "Spider-Man (2002): Full Cast & Crew," https://www.imdb.com/title/tt0145487/fullcredits?ref=tt_ov_st_sm (2022年9月6日アクセス。)

ジョルダン、ベルトラン 2013、『人種は存在しない：人種問題と遺伝学』、山本敏充監修、林昌宏訳、中央公論新社。（原著は2008年刊行。）

JTB、「コロンビア大学 (Columbia University) の観光情報」、https://www.jtb.co.jp/kaigai_guide/north_america/the_united_states_of_america/NYC/118728/index.html (2022年9月14日アクセス。)

カトリック協議会 2000、「主の祈り」、<https://www.cbcj.catholic.jp/2000/02/15/>

- 15311/ (2022年9月4日アクセス。)
- 川島浩平 2012、『人種とスポーツ：黒人は本当に「速く」「強いのか』、中公新書。
- 川島浩平・竹沢泰子 2016、『人種神話を解体する 3：「血」の政治学を越えて』、東京大学出版会。
- 木村建哉 2020、「古典的物語映画における三度の反復の効果」、『成城文藝』第 252・253号、成城大学文芸学部、pp.48(1)-18(31)。
- 木村建哉 2022a、「サム・ライミ『スパイダーマン』(2002)に於けるスパイダーマンとアメリカ合州国の関係」、『成城文藝』第 258号、成城大学文芸学部、pp.56(1)-19(38)。
- 木村建哉 2022b、「サム・ライミ『スパイダーマン』(2002)に於けるスパイダーマンによるメリー・ジェーン・ワトソンの救出の演出」、『成城文藝』第 259号、成城大学文芸学部、pp.48(1)-27(22)。
- Lee, Stan and Steve Ditko 2009, *the Amazing Spider-man: Masterworks*, vol.2, Marvel, https://read.amazon.com/reader?ref_=dbs_t_r_mwr&ref=kwrp_mwr_comic_opt_out&asin=B00GHY5QX4 (2022年9月14日アクセス。)
- Manning, Mathew K. 2012 → 2017, *Spider-Man: Inside the World of Your Friendly Neighborhood Hero*, DK Publishing. Updated edition, with additional text by Tom DeFalco.
- Muir, John Kenneth 2004, *The Unseen Force: The Films of Sam Raimi*, Applause.
- 日本基督教団讃美歌委員会 (編) 1997、『讃美歌 21』、日本基督教団出版局。
- 日本聖公会北海道教区札幌ミカエル教会、「祈り」、<http://www.sapporo-michael.org/prayers/%e7%a5%88%e3%82%8a/> (2022年9月4日アクセス。)
- 日本聖公会管区事務所、<https://www.nskk.org/province/link.html> (2022年9月4日アクセス。)
- 斉藤あや子・竹沢泰子 (編) 2016、『人種神話を解体する 1：可視性と不可視性のはざままで』、東京大学出版会。
- 坂野徹・竹沢泰子 (編) 2016、『人種神話を解体する 2：科学と社会の知』、東京大学出版会。
- 竹沢泰子 (編) 2005、『人種概念の普遍性を問う：西洋的パラダイムを超えて』、人文書院。
- Tsakiridis, George (ed.) 2022 (sic.), *Theology and Spider-Man*, Lexington Books/Fortress Academic. (木村がこの著作を入手したのは2021年11月である。)
- Vaz, Mark Cotta 2002, *Behind the Mask of Spider-Man: The Secrets of the Movie*, foreword by Stan Lee, The Ballantine Publishing Group.

本論文中の映画のセリフの日本語訳は、Blu-ray Disc や DVD の日本語字幕を参考としたが、基本的には木村によるものである。欧文名のみを挙げている文献からの引用も同様である。

本文や注に於ける人名や地名や機関名等の表記は原則として一般的に通用しているものに従い、例外は有るが（明らかに誤った表記の一部は訂正している）、原音への忠実性は必ずしも重視していない。